

平成28年度 学校評価報告書(目標設定)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①基礎的・基本的な知識と技能の習得を図るために教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 ②学校行事の活性化や外部教育力の導入、単位の互換性を利用した幅の広い学習方法を検討し主体的な行動の促進を図る。	①教育課程と指導内容を確かな学力の定着と系統立てた系列科目の精選の観点から編成し組織的な授業改善に取り組む。	①共通科目における定期テストを共通化し確かな学力の定着のため組織的な授業改善に取り組む。また必履修科目や系列科目の精選と指導計画を組織的に検討する。	①定期テストの共通化率と検討内容は十分であったか。確かな学力のため、組織的に検討できたか。 卒業に必要な履修科目と単位数、授業時間の質と確保、系列科目の精選が十分に検討できたか。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①校内のルールを遵守させることで授業に集中させ規範意識を身につけさせる。 ②部活動加入率を上げる工夫を行い責任感や連帯感の涵養を図る。	①規範意識の涵養を図るため指導體制を組織的に構築し、一丸となって指導にあたる。	①全ての教員が規範意識の向上を目指し意識して授業や生徒指導にあたる	①授業態度が向上し、授業不要物指導、頭髪服装指導等の結果校内のルールが遵守され、規範意識が向上したか。
3	進路指導・支援	①ガイダンス科目の内容の見直しを行い生徒自らの意識の変容を図り進路未決定者を減らす取組みを行う。 ②キャリアカウンセリングの研修を行い教員が適切な支援を行えるようにする。	①適切な職業観や勤労観を育成し、また社会人として適応できる能力の育成に努める。	①インターンシップや校外講座、校外学習などを利用し積極的に社会に関わろうとする能力の育成を行い、進路活動につながる意識付けを行う。	①インターンシップ・校外連携講座・技能審査・校外学習などを利用した生徒は増加したか。また、勤労観をもって進学、就職活動を行う生徒が増加したか。
4	地域等との協働	①近隣の小・中学校との交流を図り、地域での協働を推進し、信頼される学校づくりを進める。	①近隣の施設や小・中学校と生徒が交流することやまた地域での協働を通して自己有用感を持ち社会に寄与する意識を育む。	①近隣の施設や小学校や中学校にボランティアとして交流し、児童・生徒等の支援にあたる。また小学校や施設等で体験活動を行うなど地域との協働を図る。	①交流内容や回数は増えたか。行った生徒の変容や地域との連携は深まったか。
5	学校管理 学校運営	①教職員の資質の向上を図る取り組みを行い、課題解決に向けて組織として対応する仕組みを構築する。	①教職員の資質の向上を図る研修を定期的に行う。	①必要に応じたグループ編成を行うとともに、職員研修を充実させ、また総合学科教育研究会で行う夏の研修会も新着任者の研修とする。	①適切なグループ編成ができたか。また研修の延べ回数は適切であったか。内容は資質の向上につながったか。